

第 1 回 亀山市総合計画審議会 議事録

開催日時	平成 27 年 10 月 7 日（水） 14：00～16：00
開催場所	亀山市総合保健福祉センター 2 階大会議室
議事項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市長あいさつ 2. 委嘱状交付 3. 自己紹介 4. 総合計画審議会について 5. 会長、副会長選任 6. 第 2 次亀山市総合計画の策定について <ol style="list-style-type: none"> (1) 第 1 次亀山市総合計画について (2) 亀山市まちづくり基本条例について (3) 亀山市総合計画条例について (4) 第 2 次亀山市総合計画策定方針について (5) 亀山市の地方創生の取組について
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市長あいさつ 【市長よりあいさつ】 2. 委嘱状交付 【市長より委嘱状の交付】 3. 委員自己紹介 【各委員自己紹介】 4. 総合計画審議会について 【事務局より資料説明】 5. 会長、副会長選任 (事務局) <ul style="list-style-type: none"> ・ 会長及び副会長の選任については、亀山市総合計画審議会規則第 2 条の規定により、会長及び副会長は委員間の互選となっている。いかがか。 (委員) <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局案はないか。 (事務局) <ul style="list-style-type: none"> ・ 会長に村山委員、副会長に榎谷委員という案を持っているが、いかがか。 (各委員) <ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし。 (事務局) <ul style="list-style-type: none"> ・ 会長に村山委員、副会長に榎谷委員ということでお願いしたい。 【会長よりあいさつ】 【副会長よりあいさつ】 (事務局) <ul style="list-style-type: none"> ・ 14 名全員の出席により、会議が成立している旨ご報告する。 (会長) <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議の傍聴については認めることとしたいが、いかがか。

(各委員)

- 異議なし。

(事務局)

- 本日はについては傍聴者は、なし。

6. 第2次亀山市総合計画の策定について

(1) 第1次亀山市総合計画について

【事務局より資料説明】

(※各委員からの質問等は、なし)

(2) 亀山市まちづくり基本条例について

【事務局より資料説明】

(※各委員からの質問等は、なし)

(3) 亀山市総合計画条例について

(4) 第2次亀山市総合計画策定方針について

【事務局より資料説明】

(会長)

- 総合計画条例と第2次総合計画策定方針について、ご質問やご意見等を承りたい。
- 私から一つ。「第2次総合計画の構成と期間」のスライドで、実施計画が5年と書いてあるが、3年の間違いである。それはよいが、実施計画で重複している部分があり、前期基本計画では平成31年に、後期基本計画では平成35、36年の2か年重複している。特に後期の方は3年の計画が二つ並んで重複しており、非常に分りにくいが、実際はどうなるのか。

(事務局)

- 現状としては、実施計画は、まずは前期をこのような形で進めたいと思っている。1年かぶらせているのは、これまでは3年間、2年間と実施計画を進めていく中で、第2次実施計画が最後の2か年だけだと、計画的な事業がしづらいという反省を踏まえ、実施計画は3年間ぐらいのくくりを持ちたいという考え方を持っている。毎年3年ずつを見直していくローリングの方法もあるが、毎年見直していくことになると、逆にまた計画性が疑わしい部分もあるので、計画期間内に2度の3年間の計画を作るという考え方である。ただ、後期については4年間であるので、この方法がよいのか、やはり2年間ずつの方がよいのか、後期基本計画策定時に改めて検証したいと考えているところである。

(会長)

- 例えば、平成31年の第2次実施計画が完成した段階で、第2次の計画に基づいて施策が展開されると理解してよいか。

(事務局)

- そういう考え方である。

(委員)

- 策定の視点で、地方創生との絡みが相当あるように思う。基本的な考え方で、総合計画を最上位にすると位置づけされており、地方創生で検討されているものは、総合計画にすべて包含されると解釈してよいか。

(事務局)

- 委員ご指摘の通りであり、現在、1年先行する形で「まち・ひと・しごと創生」総合戦略の策定を進めている。基本的に、条例上も最上位計画は総合計画という位置づけにしている。その中の分野別計画と同じで、総合戦略もその一つと考えている。ただ、総合戦略の切り口が、縦割りの分野というのではなく、横軸になる。例えば、人口を減らさないという考え方に特化したときに入ってくる部分が中心になるので、位置づけは下位計画になり、総合戦略に書く内容は、基本的に総合計画にも盛り込んでいくことは間違いないと思う。総合計画に書かれている内容が全部総合戦略に行くのかというと、それは違うという考え方である。

(委員)

- 審議会に上程されるときに、今のことを前提にさせていただきたい。そうしないと、ごちゃ混ぜになってしまうおそれがあるので、ぜひよろしくお願ひしたい。

(委員)

- 3点申し述べたい。地方版の地方創生戦略との関係だが、書いてあるように人口ビジョンとセットで作られる。2060年まで見通したビジョンがあり、その2060年の人口をどうしていくのかということに対する人口対策的なところが強い。これは「まち・ひと・しごと創生」なので、逆にいうと、2060年の亀山のまちがどのような姿になっているか、そこでどのような暮らしをしているのかということを描かないと、5年間の戦略が出てこないのではないかなと思う。そういうことになると、総合計画は10年を見通した基本構想だが、地方版の総合戦略は45年を見通していないといけな。ここで整合性を図るには、逆に今回は、10年間の基本構想だが、超長期を見通して亀山の将来の姿は「こういう亀山でありたい」というところまで見なければいけないのではないかな。そこを見ずに、国の交付金だけ取りにいくような総合戦略を作ってしまったら、地方創生としては失敗になってしまうのではないかな。国の人口対策に寄せられたということになる危惧があるように思うので、基本構想の作り方について、検討してはどうかなと思う。
- もう1点。実施計画の3年間の中で重点化などを図っているので、その重点化を図ったものを、例えば外部評価にかけていく仕組みがうまく行けば、最近、いろいろな市町村でやり始めているようにローリングと毎年の予算編成をリンクさせて、予算の策定方針を作る感じで実施計画を使っていく。うまく行くかどうか、まだ十分検証していないが、非常に面白いアイデアである。実施計画を作る段階で、ある程度財政を念頭に置いて、どのぐらいの事業ができるか、予算フレームの検討とリンクさせて、特に投資についてはかなり厳選されるという取組をしている所もある。そのようなやり方も検討されたらどうか。
- もう1点、次回の審議会の時点では、恐らくアンケートの準備が相当進んでいると思うので、あらかじめ意見を申し述べたい。市民アンケートでは「住みやすいと感じるか」を後期基本計画で訊いている。「住み続けたいですか」という定住の意思を、第1次のときに訊いている。近頃は幸福度を訊く所が増えており、検討してはどうかという提案である。もう一つは、前回、前々回と重要度と現状評価を組み合わせ、マトリックスで分析をし、重要だが満足度の低いものを重点化していくことをやっているが、それだけではなく、どちらの方向へ動いていくかが非常に市民の関心を表しているのではないかな。どの方向へ動いていくかを分析すると、重要な方に動いていく、あるいは満足度が低い方に動いていくと、市民が「こういうことに力を入れなくてはいけないのではないかな」と思っているという傾向があるようだ。そのような動きで市民の関心が分かるような分析ができるように、少し工夫を考えるとよいのではないかな。

(会長)

- 1点めの「まち・ひと・しごと創生法」に基づく人口ビジョン総合戦略は、後で説明があるので、その説明を受けてから改めて議論したいと思う。
- 実施計画を予算編成とうまくリンクさせながら作成する方法もあるので、検討をお願いしたいということ。それから、アンケートで幸福度を訊くことや、重要度と現状評価のマトリックス分析の経年変化を見ながら、その変化の理由なども分析したらよいのではないかということ。以上の2点について、事務局からコメントはあるか。

(事務局)

- 行政評価との関係については、後期基本計画の開始に当たり、事務事業から施策までのレベルで評価をするように、システムの見直しをした。そうしたことの検証と併せて、先ほどの意見も含めた検証をしたいと考えている。
- アンケート設計は、経年観測的なものや、経過を見ていくため、ある程度前回の設問を残していく部分が出てくる。幸福度などのアンケート項目についても、実務的なところで絞り切れていない部分もある。昨年度ぐらいから、加盟している「幸せリーグ」の中で、幸福度指標を先進的にされている荒川区を中心に、幸福度をどのように測定していくのか、総合計画などに位置づけるには、どのような考え方でやっていくとよいのか、実務者レベルで研究している所に、われわれも参画している。現時点ではなかなか難しいという状況であるが、何らか考えていかなければいけないとは思っており、さらに研究を進めていきたい。

(委員)

- 幸福そのものがどのようなもので構成されているかということについては、なかなか分からないとされているが、幸福度については、国際比較などもされている。それを見ると、1週間ぐらいの間に、否定的な感情を持ったか、あるいは愉快的な経験をしたかなどという感情面の経験を訊くこと。もう一つは、より長期に「人生について満足ですか」を訊くことで、大体幸福度が分かるということだ。OECDなどでは、それを毎年調査している状況である。そういう簡単なものから入ったらよいと思う。それがどのような政策で構成されているのかは分からないのだが、どれぐらい亀山市民が満足されているかは、測れるような気がする。そういう意味で申し上げた。

(会長)

- ご意見をもとに、少し検討していただけたらと思う。

(委員)

- 策定の視点の「市民に分かる、市民とつくる視点」の中に、「市民の参加しやすい環境を作る」とあり、ここに公募委員が来ていることが一つである。その次に、中でも「若い世代」とあり、ここに若者も出ているが、4人と1人である。アンケートがされ、その分析で20代、30代という形で数字には出てくるだろうが、実際、亀山市民として、この総合計画や後期基本計画が自分の市のものだという実感があまりない。策定時にアンケートに答えた覚えがあるが、自分が策定に参加したという感覚はまずない。それから、ざっと読んでみても、「うん、これは亀山らしいな」というところは、あまり感じなかった。逆にいえば、一般的、抽象的という実感だった。読み込めば、「これはこういうことを言っている」と分かるのだが。聞きたいことは、アンケート以外に、市民が参加して作っている、あるいは若い人たちにもっと意見を聞く場を作るなどということを考えているのかという点である。

(会長)

- 策定体制に、市民参画という、フォーラムや中学生アンケート、地域懇談会などがあ

るが、具体的にどのように実施するのか、説明いただきたい。

(事務局)

- 現時点で決まっていない部分もあるが、例えば、これに先行して、総合戦略の策定においても、より若い年代の意見が必要だろうということで、こちらの会場でワークショップをしたりする形を取っている。総合計画の策定においても、より若い人に入っただきやすい環境を作って、意見を聞く機会を作っていきたいと思っているが、なかなか参加いただくことが難しい部分も多く、非常に苦慮するところであるので、委員からも、「こういう方法がよいのではないか」というものがあれば、この場に限らず提案いただきたい。総合戦略でも3中学校でアンケートを実施し、加えて、今回初めて、市内の高等学校にアンケートを協力いただいた。高等学校の先生方からも、前向きに受け止めていただいたり、「これからどうすることで協力できるのか」というご意見をいただいたりしているので、どのような形で意見交換ができるのか検討していきたい。なるべく早い段階で、計画により生かせるタイミングでと考えているが、具体的な手法までは現時点ではあまり固まっていない。

(会長)

- 最終的な成果物は、市民にはなかなか読みにくいドキュメントだと思う。もちろん、行政計画なので、行政の仕事をうまく展開するための作り方をしないとだめなので、こうせざるをえない部分もある。例えば、内容を非常に分かりやすいものにしたたり、子ども向け絵本のようにするなど工夫できると思うので、完成度が上がってきた段階で、いろいろ準備できるのではないかと思う。

(委員)

- 政策の視点の3番目の「政策にメリハリをつける視点」とあり、調べてみると「音を張り具合によって、緩めたり強めたりする」ことが「メリハリ」と書いてある。財政的な問題からメリハリをつけることが、実際にやっていくうえで必要だということとは十分理解できるが、策定の段階で、この場で本当に必要なものかどうかを議論すべきかという中で、メリハリを最初からつけるような議論をわれわれがしなくてはいけないのか、少し疑問に思う。

(事務局)

- この視点の意図としては、総合計画を策定していく中でも、当然反映させていく考え方だが、より強く表れるのは、実際に事業を実施する時に色濃く方針が出てくるものだと考える。現行の後期基本計画についても戦略プロジェクトを置いており、そういう部分にとどまるというイメージは持っているが、総花的な従来型の総合計画にとどまらないような策定を進めたいという思いで、視点を置かせていただいた。
- メリハリの部分というのは、予算だけを捉まえて表したのではなく、総合戦略でもあったように、何をこの10年間で重視していくか、どこに力を入れていくかという部分も大事な視点だと思う。その政策の中で、強い・弱いという考え方で進めていければと思っているので、ご理解いただきたい。

(委員)

- 言っていることは分かるが、「メリハリ」という言葉で表現することが不適切だと思う。表現によって受け取り方が変わるので、もう少し適切な言葉を使っていたきたい。「総花的な」と言われることは、やはり違うだろうと思う。きちんとしたものを作りたいたいということであれば、重点政策をどうするかは当然のことだ。しかし、それが「メリハリ」という言葉とイコールでは、ここに書いてあることがうまく伝わらない。

(会長)

- 少し「緩める」という観点が入るので、そこが非常にマイナスイメージだと思う。重点プロジェクトと似ているが、目標を達成するために、ここを押さえておくと、そこから少しずつ全体的によくなっていくという意味での「ツボ」というのはどうか。より適切な言葉があるかもしれないが、検討していただければと思う。

(委員)

- 市民参画のことだが、市民フォーラム、地域懇談会、アンケート等は、最終案を出すまでに開催するのか。市民フォーラムは、最終案を出すまでに、スケジュールの中では1回しか書いていないと思うが、いつ頃を予定されているのか。

(事務局)

- 少し流動的な部分もあるが、今回、総合戦略との関係で、例えば亀山高校と話している中で、積極的にかかわっていただけるような考え方をいただいている。そうすると、ある程度、年度が変わった早い段階にしたい。遅くとも、夏ぐらいまでにはしたいと考えている。時期は、まだ決定はしていない。

(委員)

- 1回目は、来年の4月にはされるのか。

(事務局)

- その通りである。

(委員)

- それ以降に、また開催するのか。

(事務局)

- できれば、それぐらい開催していきたい。

(委員)

- 前回の総合計画ないし後期基本計画の時のフォーラムや地域懇談会は、どのような参加でどのような様子だったのか、教えてほしい。

(会長)

- 当時、審議会の会長をやっていたが、フォーラムをこの建物1階の吹き抜けの所でやった。3、40人参加して、大きく三つのグループ、中学生グループと高齢者グループ、それからその間のグループに分けた。年代別にまちの課題や提案を自由に発想してもらった。現状も分かり、アイデアが出てきて、総合計画の内容に少し反映させていただいたと記憶している。

(事務局)

- 参加人数は37名で、三世代の交流ワークショップという形をテーマに持って実施した。三世代とは、若者世代、現役で働いている世代、シニア世代という世代にくくって、世代間交流もできるような形のフォーラムとして開催した。テーマとしては、まちの安心・安全やまちの元気というキーワードで意見を出していただいた。特に、現役世代の方の申し込みはかなり少なかったため、現役世代の中でも高めの年代の方が多かった。若者世代は、前は中学生アンケートをしていなかったため、3中学校からご参加いただく形で構成させていただいた。

(会長)

- 前は確か市民公募したり、中学校にお願いして来ていただいた。個人で参加するやり方もあるが、市民団体に声をかけて、議論するような場があってもよいのではないかと。そうすると、実行するとき、実行の母体がある程度ある。団体を集めて、市民社会

と行政の両方で、何かを作り上げていくという議論にしてもよいと思う。

- ここで次の話題に進んで、それでもう一度全体的な質疑応答をしたいと思います。

(5) 亀山市の地方創生の取組について

【事務局より資料説明】

(会長)

- 先ほど委員から、総合戦略の目標年次がかなり先にあって、しかも人口減少対策に特化している一方で、これからここで討議する総合計画は、もう少し幅広い分野を扱う。その関係が分かりにくいという指摘だと思うが、少しコメントしてほしい。

(事務局)

- 人口ビジョンは、将来人口の展望ということで2060年に人口水準をどれぐらいにしたいのかという考え方を中心とした内容となっている。基本構想に繋がる部分として、都市イメージについては、5年間の総合戦略の方で「めざす都市像」という形で置くイメージを持っている。つまり、人口ビジョンと総合計画基本構想が直接的にリンクするイメージは、あまり強くは持っていない。総合戦略の中で置く「めざす都市像」は、5年間の都市像としても置くが、それほど変わるものではないという認識を持っているので、そちらの方が基本構想の将来都市像とある程度関連してくる部分ではないかという考え方で、現在は策定を進めているところである。

(委員)

- 人口対策が非常に強く出るとまずいと思っている。一例を挙げると、あるまちで話し合っていることだが、出生率を上げようということは、具体的には誰かが出産することである。要するに赤ちゃんを数で数えるような人口対策で、本当に子どもが多く産まれるようになるかという点で恐らく違う。一人ひとりの女性が、ライフサイクル全体で輝くようなまちづくりをして、産むか産まないかという選択をしたときに、「このまちだったら、子どもを産み育てたい」と思うようなまちづくりをしていかないといけない。人口を増やすために何とかするなどという対策ではうまくいかないという議論をした。人口対策として「誰か来てください」と言っても、転入とは、具体的にはそこに誰かが「亀山は素敵なまちですね」と入ってくることであろう。「誰でもいいから、入ってきてください」という転入対策では、恐らくうまくいかない。総合戦略とは、やはり「亀山市がこういう素敵なまちを作っていくのだから、入ってきませんか」、あるいは「こういう仕事生まれるから、そういう仕事をする人たちは来てくれるよね」ということではないか。だから、「定住してください」ということと「こういう仕事があって、こういう暮らしができる」ということを、ある程度セットで取り組むべきだという議論がある。亀山市の場合、人口推計を見るとほとんど維持されるので、あまり切実ではないかもしれないが、三重県のほとんどの市町では人口がかなり減る。そうすると、まちの姿も変わってくる。ある程度、どういうまちで暮らすのかということとセットで検討しなくてはならないという切実さがある。亀山市の場合はそこまで切実ではなくても、やはり同じようにやっていかないといけない。これからの45年はよいかもしれないが、その次の45年、その次の45年と考えたら、この45年に何をやったのか、あるいは5年、5年とやっていったのかということが、次の亀山市をつくっていくわけだから、きちんと45年先を見据えて、どんなまちに、どんな人が住んで、どんなふうに暮らしているのかということを見通した対策をやらなければいけない。それを国のマニュアルに沿うと、地方版総合戦略には色濃く入れることが恐らく難しい。将来像などについては、総合計画の都市像が、この人口ビジョンからの総合戦略の目指すものと同じであると書けばよいのだが、そうすると、今度は

45年先を見据えた亀山の姿を、基本構想に書かなければいけなくなると思ったわけである。基本構想の策定方針の中には10年間を見通して作ると書いてあったように記憶しているが、もう少し長期に見通したうえで10年間の期間だと思えないといけない。超長期の見通しの展望のうえに10年間を見通して基本構想を立てることを考えないといけないという意味で申し上げた。総合戦略には、将来の亀山市はこうだと書く場所は多分ないので、それは総合計画基本構想に亀山市はこういうものを目指しているということを先まで見通して書いて、それを総合戦略の目指すものと共有するという形を取ったらどうかと考えたところである。

(会長)

- 総合戦略の審議会ではないので、それは向こうに任せつつも、こちらからも少し意見を言う場があると思う。その時に、もう少し具体的に申し上げたいと思うが、総合計画を作るに当たって、2060年にどうなるかということも意識していく。策定の視点の2だが、「長期的な人口維持を見据える視点」というところで、それでもやはり全国的に人口は減っているわけである。人口が減ってもきちんと持続できるような社会の空間を作るという視点が大事である。できれば人口が減らない方がよいので、そのための政策もやるのだが、人口が減って、しかも超高齢化することを見据えて、発想の転換をしなければいけないと思う。その辺を少し視点として意識していくとよい。特に、人口は他の自治体に比べれば減らないかもしれないが、生産年齢人口は明らかに減る。そうすると、財政面でも厳しくなるので、そういう面からも検討が必要だ。

(委員)

- 総合計画との関連性もしくは整合性がよく分かった。しかし一方、説明を聞いたから、特に私は分かったわけで、総合戦略と地方創生、まちづくりもあれば行財政改革もあり、実利がどこにあるのかが、市民目線では分からないと思う。だから、少し交通整理をする必要があるのではないか。ここへ来るために、頭の中を整理したのだが、総合計画は大きな三角形を全部包含して、その中に地方創生や行財政改革などがあるという位置づけを書いてみた。このぐらい大ざっぱなことを示さなければ、市民ではこれだけの中身を理解するのは無理だと思う。広報する時には、ぜひ分かりやすい表現をお願いしたい。

(会長)

- 今日の説明の内容について、さらに質問等があれば、事務局に個別に連絡いただき、対応していただきたい。
- それでは、事項書にある5つの事項について、審議を終了したい。